

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



10月のアルミ概況及び11月の見通 (3)

■貿易指標

◆輸 入

新地金	+14.5%	8万3,956 t
二次合金	-59.6%	3万2,554 t
スクラップ	+40.3%	898 t
合金スクラップ	+3.7%	5,948 t

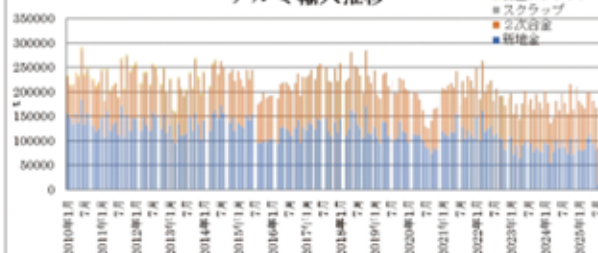
■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、9月の自動車生産台数は前年比-0.2%の72万4,397台。輸出は、前年同月比-1.4%の34万3,452台となり、国内外ともに減産傾向が続いた。

輸 入	7月	8月	9月
新地金	9万1,925 t	1万27 t	8万3,956 t
前年比	-6.8%	+11.7%	+14.5%
二次合金	8万4,690 t	7万5,494 t	3万2,554 t
前年比	-11.5%	-16.9%	-59.6%
スクラップ	640 t	789 t	898 t
前年比	-251%	+11.8%	+40.3%
合金スクラップ	5,844 t	5,172 t	5,948 t
前年比	-22.1%	-35.3%	+3.7%

アルミ輸入推移



出典 財務省 貿易統計

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会の発表によれば、10月の自動車販売台数(軽除く)は、前年比-4.3%の24万7,883台需要回復の遅れが鮮明となった。

◆住宅着工

9月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比7.3%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比2.4%の増加となった。

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は、前年比

+0.7%の14万2,126 t。5か月ぶりプラス。

板は生産・出荷ともにプラス。「自動車」及び半導体製造装置向けを含む「その他」はマイナスだったが、「缶材」「はく地」が増加し内需はプラス、輸出もプラスだった。押出は生産、出荷ともにプラス。トラック・バス向けが好調だった「自動車」が出荷全体を押し上げた。

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

前年比 +1.6% 5万9,246 t 8か月ぶりプラス
出 荷 -0.2% 5万8,634 t 14か月連続マイナス
生産は8か月ぶりに増加も、出荷は14か月連続マイナスで回復力はなお弱い。

■見通し

◆自動車

販売：前年同月比-2%~0%、月次では小幅プラスの可能性あり。

生産：前年同月比0%~+3%、月次では+4%~+8%程度。

全体としては、需要側の抑制要因があるものの、季節性や期末商戦による反発・生産回復の動きが重なり、「マイナス幅縮小、もしくは横ばい」域での安定化を想定。

◆アルミ圧延・押出品生産数

11月のアルミ圧延・押出品生産は、10月の回復基調を引き継ぎ、小幅プラス圏を維持する見通し。板類は「缶材」「はく地」を中心に堅調だが、「自動車」「一般機械」向けの弱さが続く見込み。押出はトラック・バス向け需要が支えとなる一方、住宅・建設関連は低調で全体の押上効果は限定的。輸出は円安基調が追い風となるが、原材料コスト高と国内需要の鈍さが上値を抑える要因となりそうだ。

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

アルミ2次合金は、自動車や機械関連向けの需要が徐々に回復しつつあるものの、在庫調整の影響や海外市況の軟化が続き、回復基調は緩やかとみられる。生産は前年同月比でほぼ横ばい圏内、出荷は一部業種の稼働調整により小幅なマイナスが続く見通し。コスト面では電力・物流費の上昇が依然として採算を圧迫し、全体としては横ばいから弱含みの推移が想定される。

■スクラップ景況予想

2025年11月の国内アルミスクラップ需給は、回収・再生処理能力の向上で供給力は緩やかに改善するものの、自動車・建材・飲料缶など需要分野の堅調さが続き、全体としては均衡からややタイト(次頁につづく)